

2022(令和4)年度 第 3 回 人権のために学ぶ同和教育講座

「ハンセン病問題」

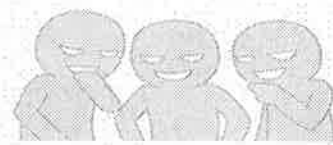
日 時 8月20日(土) 13:30~15:30

場 所 倉吉交流プラザ 視聴覚ホール

講 師 内田 博文 さん(国立ハンセン病資料館館長)

演 題 ハンセン病差別と新型コロナ禍差別

参加費 無料
事前申し込み 有
窓口 倉吉市人権政策課
☎22-8130まで



ハンセン病とコロナウイルスと似ている差別につながるものは、「うつる」という言葉です。何がどう「うつる」のか怖いものだけが先行し、偏見と差別を生み出してしまいました。

自分は差別などしないと誰もが思う。しかし、実際にはする側に回ってしまうのはなぜでしょうか。コロナウイルスの感染が又広がりつつあります。同じことを2度3度繰り返さないために学びを重ねていきましょう。

2022(令和4)年度 第 4 回 人権のために学ぶ同和教育講座

「障がいのある方の人権問題」

日 時 8月27日(土) 13:30~15:30

場 所 倉吉市交流プラザ 視聴覚ホール

講 師 井谷 優太 さん(サウンドクリエイター)

内 容 「幸せな人生を創造するわたしの生き方
～音楽と共に～」

手足にフィジカル的な障がいがあっても音楽活動ができる方法を独自に確立し、シンセサイザーとサンプラーを自由自在に操り、音楽制作やライブ活動をしているマイノリティ・サウンドクリエイター、井谷さんをお招きします。
一緒に学んでいきましょう。

参加費 無料
事前申し込み 有
窓口 倉吉市人権政策課
☎22-8130まで



倉吉市人権文化センターだより

2022年8月1日 発行 No. 139号

発行所：倉吉市人権文化センター

住 所：倉吉市鍛冶町1丁目2971-2

電 話/FAX：0858-22-4768

メールアドレス：jinkenbunka@ncn-k.net

きずな

8月15日は終戦の日～終戦から77年を迎えて～

昭和16(1941)年、日本陸軍が英領マレー半島に奇襲上陸し、日本海軍がハワイ真珠湾を奇襲攻撃しました。日本は、アメリカ・イギリスに宣戦を布告し、第二次世界大戦の一環をなす太平洋戦争が開始されました。

昭和18(1943)年には、学生を軍に徴兵する学徒出陣を行い、さらには、学徒動員で学校に残る学生や女性を軍事工場で働かせました。また、数十万人の朝鮮、中国に住んでいた人々を日本本土などに強制連行し、鉱山や土木工事現場などで働かせました。

軍隊に動員された青壮年は400万～500万に達したと言われています。

衣服や食べ物も不足し、切符によって物を配る総合切符制が取られましたが、切符があっても、物が無い状況になってしまいました。

さらに、東京大空襲をはじめとする本土への空襲、昭和20(1945)年8月6日に広島に、8月9日には長崎に原子爆弾が落とされたことで、多くの方が戦争の犠牲となりました。

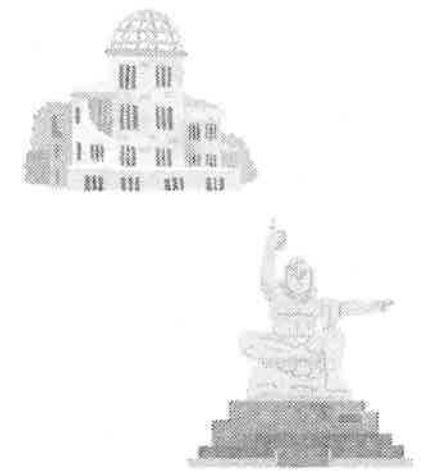
甚大な被害を受けた日本は8月14日にポツダム宣言を受諾し、8月15日に昭和天皇の肉声による玉音放送にて終戦を国民に発表しました。

第二次世界大戦で亡くなった方は飢饉や病気の被害者を含め、世界で5000～8000万人とも言われ、当時の世界人口の2.5%以上が被害者となりました。

終戦から今年で77年となりますが、未だに世界各地で戦争や紛争は続いています。

戦争は最大の人権侵害です。

平和とは何か、自分にできることは何があるのか…
一緒に考える機会にしましょう。

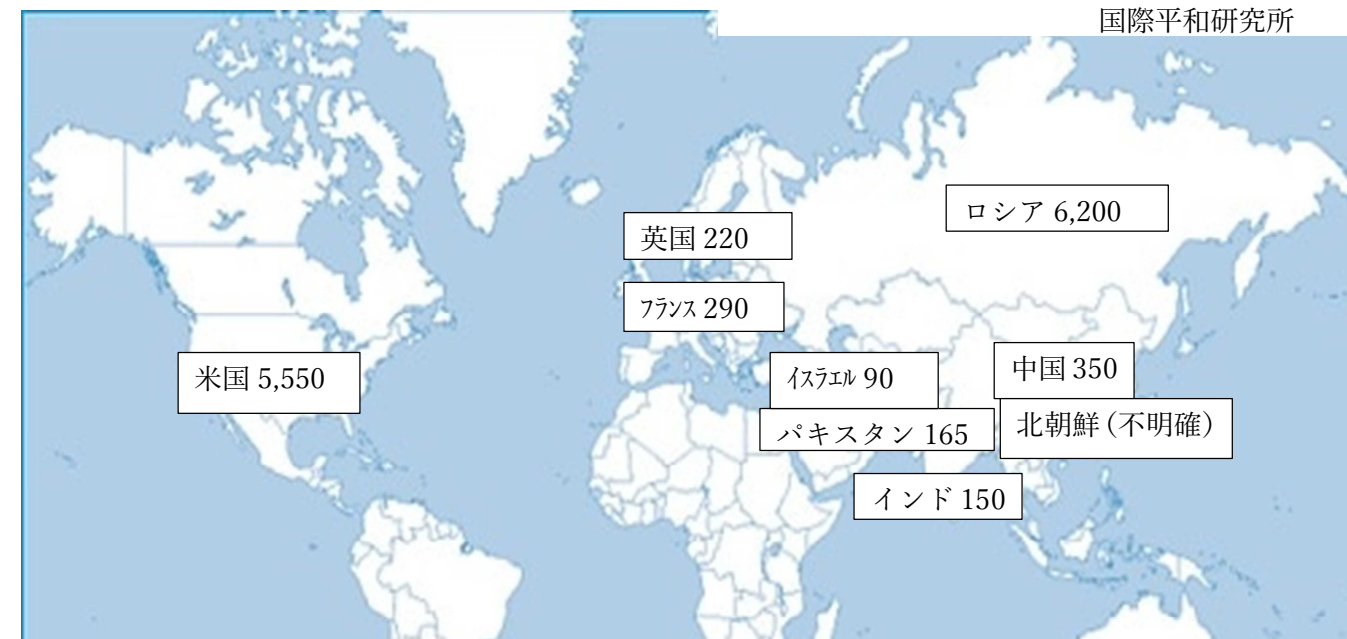


原子爆弾投下から77年、あの思いを二度と繰り返してはいけない。 ～ 戦争と核兵器のない世界をめざして ～



資料参照：インターネット・ストックホルム
国際平和研究所

世界の核兵器保有数（2022年1月）



＊核兵器禁止条約

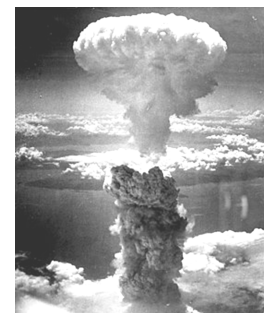
2017年7月国連加盟国の6割を超える122カ国が賛成により、国際連合総会で採択され、署名開始から50カ国の批准国が越えたので2021年1月に発効されました。
2022年6月現在批准国66カ国

ヒロシマの証言



体にのしかかる強烈な光線
母は血に染まり、口からはガラス片が・・・
血まみれの腕の中で無心に乳を吸う赤ちゃん、
幽霊のように歩く中学生
全身大火傷の父 山なす死体にも無感覚に
なって・・・
急性障害現れる 軽石のようにすかさずの兄の骨
被爆体験を語ることが平和への使命

1945年8月6日午前8時15分ヒロシマに原子爆弾が投下された。



人類史上初の人間をねらった核攻撃です。ヒロシマは約17万人、

8月9日に落とされたナガサキは約7万人が亡くなりました。

ヒロシマ、ナガサキの街は壊滅的な状況となり、うめき声を上げて水を
求めてさまよう人・ひと、肌の肉が垂れ下がり、誰とも分からないような姿で

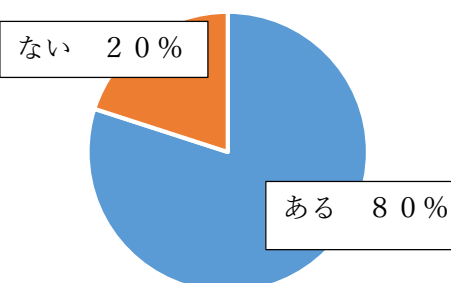
たちすす人、地獄絵のようだったと。原爆は、生き残った人々にも大きな問題をいくつも残しました。放射能による白血病やがんの発生、身体損傷による障がい、体内被曝の子どもたち、周りの人たちの差別や偏見など、一言で言い表せないほどの苦しみと悔しさと、どこにもぶつけられない憤りの数々です。戦争は怒りや苦しみしか生み出すことのない残念なものです。

一人ひとりの力では止めることは出来ないけれど、戦争のない、核兵器のない社会を願って考えていきたいものです。

被爆体験の風化に危機感

下記の表は2021年、読売新聞社と広島大学平和センターが共同で実施した被爆者語り部の方々へのアンケート結果です。被爆者の平均年齢が83.94歳となり、被爆体験を語れる人が減っていく中、不安があると回答した人が80%とありました。語り部の方だけに頼るのではなく、戦争の悲惨さや最大の人権侵害であることを大人が語り、戦争のない核兵器のない社会をめざして一人ひとりが関心を持ちましょう。

問い：被爆者なき時代への不安はありますか



以下のとおり

- 再び核兵器が使われるかもしれない 42%
- 核絶滅を求める被爆者運動の灯が消えるかも30%
- 原爆投下が教科書の中の出来事になる 27%
- 被爆国としてのメッセージ性が弱まる 25%
- 核保有国が増える 23%